

貿易手続等に係る官民協議会（第6回）

日時：平成30年3月27日（火）16:00～16:57

場所：中央合同庁舎8号館5階共用会議室A

1. 議事

- (1) 事務局説明
- (2) 自由討議

2. 石原座長冒頭挨拶

- 本日は最終回のため、これまで5回にわたって議論した事項の総まとめをしたい。

3. 各委員等からの意見の概要（順不同）

（CYカットタイムの短縮）

● 石原座長

前回の協議会において、何名かの委員におかれては会員企業に内容確認いただくとのことだったが、その後、どのような御意見があったのか、簡単に御紹介をお願いしたい。

- 会員各社に問い合わせをかけており、まだ全社の確認はとれていない。もう少しお時間をいただきたい。各社、お国柄も違うみたいで、いろいろな考え方があるみたいで、問題なしというところもあるが、まだいろいろ話し合いをしている会社もある。今の段階ではどこがどうかまだ報告できないが、もう少しお時間をいただきたいと考えている。

- 今、メンバー各社に照会をかけて、この取りまとめのところも見ていただいている。我々としては、船会社と荷主間の判断で自由にできるということで、今の時点で特にこれに対して反対とか、そういった意見は出ていない。特にこれに対してだめだとかどうのこうのということにはなっていない。

● 石原座長

- それでは、お話にあった会員企業への御照会の結果を踏まえ、事務局と改めて相談の上、必要な修正をさせていただきたい。以後の調整については、座長一任ということにさせていただきたいと思うが、よろしいか。

（「異議なし」と声あり）

- 石原座長
それでは、本件については、調整後、事務局から完成版を共有させていただく。完成版の共有があれば、各委員においては、所属する団体等の会員に対して本件をしっかりと周知いただくようお願いする。また、関係省においても周知に協力いただくよう、重ねてよろしくお願ひしたい。

(貿易手続等に係る官民協議会取りまとめ(案)について)

- 石原座長
「第4 今後の検討課題」の「1. 港湾のIT化」については、この協議会では十分な議論ができなかったところがある。港湾の電子化については非常に重要な今後の課題だと思うが、本日は、内閣官房IT総合戦略室にもお越しいただいている。本件について、いかがお考えか。
- 中島補佐官(内閣官房IT室)
私どものほうでも、最近、国土交通省港湾局とこういって議論について取り組んできており、体制を拡充して、今後、検討を進めていければと考えている。予定ではあるが、この協議会には出てきていない陸送業者とか、生産者とか、そういった方々を含めて課題を丁寧に洗い出しながら、計画を立てていきたいと考えている。
- 石原座長
本件に関して、経済産業省から何か。
- 伊奈室長(経済産業省)
今後の検討課題に挙げられている港湾手続等の全体の最適化という視点を踏まえ、経済産業省としては、今回、議論の中でも何回か御指摘のあった、電子化ができていない事業者の方の電子化の推進といった支援を行いたいと考えている。港湾の全体の最適化という観点で、ここにいらっしやらない方々も含めて議論をし、経産省としても、来年度予算事業なども予定しているので、全体の調和の中で実施できるような形で、ぜひ全体最適化の支援に引き続き取り組んでいきたい。
- 石原座長
それでは、港湾のIT化などについては、内閣官房IT室が中心となって、今後、さらに検討を進めていただきたい。それでは、ただいまの事務局、IT室、経産省からの説明を踏まえ、討議に移りたいと思う。
- GYカットタイム短縮に関しては、この短期間で荷主が要望させていただいた内容を取

りまとめいただき、感謝している。ただ、そうはいつでも荷主も船社と個々に御相談をさせていただきながら順次対応という形になるかと思っているので、船社側での御協力もよろしくお願ひしたい。それと同時に、先ほど経済産業省からもお話があった電子化という点では正しい情報を船社側に送ることができず不積みのリスクを抱える荷主も現実存在すると思うので、そのようなリスクを抱える荷主を救う基盤構築につき、ぜひ官側の御支援をいただきたい。

- 渋滞対策に関しては、博多港、東京港の取り組みや国土交通省港湾局のAI港湾の説明をうかがい、これまでもいろいろ施策等を打っていただいていることも認識した。多分これといった得策というか、施策というか、これをやれば渋滞がなくなるといったものは非常に難しいと思うので、ここに挙がっている課題も含め、トータル的に対応していかないと、我が国の港周りの渋滞といったものは解消していかないとと思う。それに関して、荷主が協力すべき部分、やるべき部分のところは、全面的に協力させていただく。先ほどの内閣官房IT室からのお話は、港湾対策が中心と思うが、荷主からすると港湾と航空双方による輸出入オペレーションになるので、全体最適という中では当然、航空のほうも視野に入れていただくようお願いしたい。只、そうは言っても港湾関連の課題が圧倒的に大きいかと思うので、ぜひ具体的な策の推進を体制の検討も含めよろしくお願ひしたい。
- ITに関して、内閣官房IT室、経済産業省より説明があったが、1つ御質問させていただくと、どういう立てつけで各省庁が横連携をとって進めていこうとしているのか、その中に民間事業者をどういう形で関与させていくのか、今の段階でもし何か構想案があれば、お話しできる範囲で結構なので、お聞かせいただきたい。
- 中島補佐官（内閣官房IT室）
- 今のところは、まず、国土交通省港湾局と経済産業省と一緒にチームを組んで、さまざまな方の課題のヒアリングを、今、既に進めている。この間での一体感は既に調整がとられていると思っていただきたい。ばらばらに進むような形ではないと思っている。今後、民間の方々も含めてどのように組織化をしていくかということについては、検討中だが、そういったことも視野に入れて、検討を進める予定。
- 1つだけお願ひしたいのは、内閣官房IT室のご検討には、財務省も入っていただいて、我が国貿易システムの大インフラであるNACCSも議論に組み込むような形で御検討をよろしくお願ひしたいと思う。
- 中島補佐官（内閣官房IT室）
- もちろん財務省とも一緒にやらせていただきたいと思う。

- 内容はこれでいいが、今後、議論するときのためにお願いということで1つ意見を申し上げたい。渋滞緩和に関して、10ページあたりで「例年年末、中国の旧正月前、ゴールデンウィーク前、お盆前等」ということが書いているが、例えば、交通計画とか、そういう議論をするときには、1年間のうちの30番目の時間交通量を使って、30日位までは渋滞が起きてもしようがないよね、という議論をしたり、地区交通計画で、あるエリアの中で渋滞問題を考えるときは、1年のうち10番目でいこうか、1年のうち10日位はしようがないよねと、例えば、お正月とか何だとかというとき、花見のときはしようがないよね、という覚悟が要るのだと思う。それを年末も春節も何から何まで全部渋滞がないとやると、むしろ過剰投資になる。これは皆さん方もそういうことをいつも御検討されていると思うので、今後、どの辺を狙うかということをお考えになりながら、対策のバランスを考えていただきたい。
- 今後の課題としての港湾のIT化、当然我々海運も含めた意味でのIT化だが、まだこの業界はほかと比べてIT化がかなりおくらしている気がする。海運会社も、今回、さらにこの議論は、内閣官房IT室、国交省、経済産業省、各団体の皆さんを含めて進めていくのだろうが、我々外国船舶としても非常に興味がある。NACCSに対しても、要望があるので、それらを含めて、いろいろと今後申し上げるかもしれない。
- 我々としても、港湾のIT化を進めることは大賛成だが、どうしても法制面の部分が実を言うと置いてけぼりになってしまう部分がある。今後、IT化を進めていく中で、法制面も一緒に議論していただきたい。例えば、渋滞緩和で、ヤード内で蔵置量が非常に多いので、これをバックヤードに持っていけば渋滞緩和なり蔵置量が少なくなるが、外国貨物のまま動かそうとする場合は、なかなか簡単に動かせない部分がある。
- もう一つは、バックヤードに移す場合は、トレーラー、トラックを使わなければいけないが、今、ターミナル内に置いてある港内シャーシーでは外の道路を走ることはいけない。そうすると、必ずトラック業者を頼んでバックヤードに運ばなければいけない。我々としても、ターミナル内の蔵置量が多くなったときに、外に運びたいのだけれども、お金と手続に時間がかかるというところで二の足を踏む場面もあるので、すぐできるかできないかは置いておいても、どこまでできるのか、いろいろ検討していただきたい。
- CYカットについては、今回、いろいろな選択肢があるということで御提示いただいた。今回いろいろな選択肢、例えば、船会社と荷主の個々の取引で、3日にするとか2日にするということが起きると、実際問題として、我々の団体でもいろいろな考え方の会社があるので、全体で画一的にリードタイムを短くしないと、このルールが本当に普及していくのは、現実問題として難しいと思う。ただし、今までの画一的であった

ものに風穴をあけて、新しい仕組みが少しずつでもできるようになることは大きな一つの進歩だと思う。運用の問題はありながらも、こういう形でまずは風穴があいて、これがさらに普及するときは、IT化でとかで、今までよりも非常に便利になるとか、リスクが減るとか、いろいろなことが起きる。その時に1段越えて普及に弾みがかかる形があると思うので、今回は少しずつという形になるかもしれないが、そういうつながりを期待したい。

- 港湾の渋滞に関しては、荷主が待機料を払うべきではないかとか、車両の絶対数が足りないとか、いろいろな議論があった。根本的には、ヤードの周りで待機している時間が非常に長くて、その結果として、ドレージ業者が経費的にも疲弊するとか、車が足りなくなるとか、いろいろな事情がおきている。しかし、根本的な原因は1つ2つの大きな問題にたどり着くのではないかと思う。先ほど年末年始やゴールデンウィークに非常に混雑するという話があったが、そういう時には混雑もあるが、車が足りなくなる。ただ、現在では日常的にドレージの手配が難しくなるということが起きている。これからオリンピックに向けて、更に道路が混雑すると輸出入が非常に滞るなど、本当に社会問題になってくるのではないかと思う。CYカットと違った問題で、これから問題が深刻化してくるものだと思うので、これも今回の議論を契機に、IT化も含めて多くの課題があるかもしれないが、ぜひ少しずつ改善させていって欲しい。今後の議論に向けて今回の取りまとめは良かったと思うので、皆さんのお力で改善の方向に向かえばいいと思っている。
- 先ほどお話にもあったが、最後のほうに「港湾のIT化」と記載がある。これは「貿易手続のIT化」という表現がいいのかなとも思ったが、全体の貿易手続を、IT化というよりは、簡素化、効率化を図っていくという観点で、ぜひ内閣官房IT室でも今後御検討いただければと思う。その際には、今までも、いろいろなことが民間の合意事項というところで落とし込まれるとなかなか全体最適にならずに個別最適になってしまうので、ぜひ民間の意見も聞きつつ、国の強い指導力で効率化を果たしていただければと思う。
- IT化に関しては、東京港においては、各ターミナルが個別のシステムを開発しているということで、それらを大きなもので包含することを期待している。今あるものにかわるものではなくて、今あるものをいかに活かすか、ということで、いわゆるネットワーク化と言っていいのかどうかかわからないが、そういったものを期待したいと思う。
- IT化に際しては、官側で計画してつくられるのもいいが、できれば民間の力、関係者のみではなく利用人も、例えば、応分の参加をして、場合によっては負担もして、サプライチェーン全体に資するものであってほしい。

- 私ども現場の立場から、港湾の渋滞などをいろいろな視点から検討されたのかなと思う。特に内閣官房IT室の体制の拡充を検討されるということで、私どもが現場を見てみると、非常にマニュアルでやっている作業が多い。特に予約の部分。国交省も取り組まれているが、予約が日単位になっているというのはやはり問題で、時間単位でやっていって、現場のターミナルの前にどのぐらいの車が入るのかということはある程度制限する仕組みが必要ではないか。NACCSというシステムが非常に大きい存在なので、これのユーザーという部分では、今、トラック事業者は恐らく入っていないと思われるので、何らかのIDとかパスワードでくくって、もう少しユーザーをふやすような形で、NACCSが持っているいわゆるシステムなども使えるような形にできればいいのではないかと考える。
- 今回の検討を最後まで聞かせていただき、特にCYカットの多様化というか、いろいろなパターンが求められるということで、その中で多分港湾のビジネスにおいていろいろなやり方が工夫できるようになっているところは大変大きいと思う。そういう点については、この協議会の大きな成果かと思う。また、この協議会の中でいろいろと、港湾の今の手続関係のいろいろなプロシージャー、プロセスが議論されたということも一つの成果ではないか。
- 私どもの会社は、インフラとかスーパーストラクチャーのプロバイダー的な立場だが、今後、単に容量をふやすとか、荷役機械の台数をふやすとか、そういうことだけではなくて、今、IoTが盛んに言われているが、自分である程度の判断ができる、動けるような、より賢いインフラ、スーパーストラクチャーを提供できないかなと思っている。そういうベースになるのは、港湾のいろいろなデータのデジタル化。港湾の手続関係のプロセスがはっきりしているということは、どのようなデータが必ず皆さんの目の前にあらわれるのか。ビジネス情報は必ず秘匿されるが、こういう情報は必ず皆の前に出されるものなので、できればそういったものをちゃんとデジタル化して共有化することによって、本来の意味の港湾のIT化、もしくはAIが港湾をコントロールすることともそこから出てくるのではないかと思う。そういう意味では、そういう大きな議論の土台をここでしていただいたということは大変大きいと思うし、今後、先ほど内閣官房IT室から関係省庁で一緒になって港湾の情報化についても御議論いただくということなので、そちらにうまくつなげられればと思う。よろしく願いたい。
- 港湾の渋滞問題で、非常にこれは道のりの長い対策ではあると思うが、JR貨物を活用するという方法、これを私は国交省の関東地方整備局の協議会でも申し上げた。その協議会にはJR貨物さんも出ていて、協議はしているが、ここで皆さんに御理解いただきたいのは、ターミナルに引き込み線を入れるのが一番効率がいい。つまり、トラックを使わない。今は、ターミナルとそのいわゆるJR貨物のランプ、レールターミナ

ルと船のターミナルの間を結局トラックで走っている。これだと渋滞緩和にはならない。一番いいのは、大井のターミナルなりに引き込み線を入れること。ただ、インフラの問題があって、物理的な問題もあるが、要は、彼らいわく、できないことはないのだけれども、お金がない。どうもJR貨物は余り予算がないみたいで、民間企業だから、もうからないことに投資はできない。ただ、この辺は私がどのように進めていいかわからないが、国の補助を出すとかという形で、一部活用はしているらしいが、まだまだこれからポテンシャルはあると思う。

- 江原課長（国土交通省）

万事そうだが、JR貨物の引き込み線を入れれば改善にはつながると思うが、結局、費用対効果の問題が一番大きいと思う。そういったことを実際にやった場合に、どれぐらいJR貨物自身の採算とか、供用されるターミナルのほうの負担がどうなるかとかがあるし、社会的な外部効果がどれぐらい生まれるかというところは、まさに費用対効果を見ながら検討する。これは、今、御提案のあったような話に限らず、全てをそういう目で見ていくということになると思う。いろいろアイデアはあると思うし、一つ一つ検討はしていくのかなとはもちろん考えている。

- 確認の意味になってしまうが「第5 終わりに」のところで、最終的に「今後は、協議会で取りまとめられた事項等について、実施状況を定期的に把握し、必要に応じて見直し等を図っていくことが必要である」とくくられるのだが、先ほど、本会議は本日の取りまとめをもって今年度で終了となり、来年度以降は内閣官房IT室で検討を引き継ぐという話をいただいた。只、制度面や商習慣という話も今後当然出てくると思うので、そういう状況を鑑みた場合、本会議のフォローアップ会合みたいなものを、来年度以降、定期でなくても「今後は」というところに含みは持たれているのか。あるいは、それらも含め、今後の検討は内閣官房IT室に移管されるのか。

- 川村参事官（内閣官房日本経済再生総合事務局）

正直に申し上げて、何をどのような会議体でやるかはいろいろなバリエーションがあると思っていて、私どもでいうと未来投資会議の構造改革徹底推進会合という既存の会議体もあるので、そこでフォローアップを行うのが適切であればそちらで行うという選択肢としてあり得る。それ以外に個別にフォローアップ会合ということで、より専門性のある方々にお集まりいただいて議論したほうがよければ、そういう形もとりに得るということだと思う。そこは、どのような中身を議論するかということに応じて、適切な場を検討して対応していきたい。

- 石原座長

本日の議論はこれまでとさせていただきたい。とりまとめ案については、ただいま御指摘いただいた点を踏まえ、事務局と相談の上、必要に応じて修正をさせていただきたい。以後の調整は、座長一任とさせていただきたいと思うが、よろしいか。

(「異議なし」と声あり)

4. 石原座長総括

- それでは、本件については、調整後、事務局経由で完成版を共有させていただく。
- この半年間、活発な御議論を誠にありがとうございました。非常に限られた時間の中だったが、主に輸出に焦点を当てつつ、CYカットタイムの短縮と港湾における渋滞緩和について御議論いただいた。
- CYカットタイムの短縮については、これまで一律3日とされてきた商慣習を見直して、他の選択肢を選択することも可能になるという方向で、取りまとめられた。CYカットタイムの3日前ルールが始まって15年以上経過したが、今回の取組は、我が国の輸出競争力を強化するという点に関して非常に大きな第一歩であると言える。
- また、港湾における渋滞緩和については、これまで何となく港湾で渋滞が発生しているという認識であったが、その要因や対策についてある程度系統だてて整理することができたと思う。港湾における渋滞緩和については、非常に多くの要因が絡んでおり、一概にこれを行えば解決するという問題ではないが、喫緊の課題だと思う。各港の状況に応じた適切なシステム等を関係者の合意を得つつ導入していくことが非常に大切だということを、改めて感じた。
- さらに、今回は十分な議論ができなかったが、港湾のIT化を促進することで、より効率的な業務を行っていくことが可能であると考え。内閣官房IT室におかれては、本件について前向きな御検討をよろしくお願いしたい。
- 半年間、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。